

「家を取りまく住の環境」

チャタジー 公子 (インド)

インドに暮らして 20 年以上になるが住を取りまく生活環境の変化に思いめぐらすとき、やはり当国の 1991 年の経済自由化、1995 年の WTO 加盟の影響が大きいように思う。インドは総人口の四分の一以上の貧困層を依然かかえているものの、都市部やその近郊の中産階級とされる一般市民の生活は、観察するに経済自由化以降ここ十年間でかなり変化してきているといえるだろう。

私の住む西ベンガル州の州都コルカタ近郊を例にとれば、まず家庭電化製品の普及があげられる。冷蔵庫はもとより、経済自由化以前は二つか三つの国営チャンネルしかなかったのが、ケーブル回線により世界の情報が得られる百以上のチャンネルを選べるようになって、それまでの白黒テレビが駆逐され今やほとんどの家にカラーテレビはある。ちなみにこちらの友人主婦たちと故障して一番困る家庭電化は何かという話になった時、私は洗濯機と応えたが、電子レンジと応えた人が多かったのには驚いた。我が家には電子レンジはない。

電気、水など生活の基本設備は電化製品の普及ほど顕著な変化は見られないのが実情といえる。特に夏や雨季には、日に 6 時間くらい間断的に停電することがしょっちゅうある。理由は単純に電気の供給が需要に追いつかないため、夏は扇風機やエアコンの使用が増えるし、雨季は火力発電原料の石炭が品不足になる、などの理由がある。一方、生活水は 24 時間ではなく、まだ日に 4 回の時間制供給である。各家庭はその経済状況に応じて、近くの共同水道まで行って、飲み水を汲み、洗濯や水浴びをするか、あるいは水道管を家まで引いて外まで行かなくても良いようにするか、さらに屋上にタンクを設置して家まで引いた水道管から水を汲み上げておき、蛇口をひねれば 24 時間水が使えるようにするかは、それぞれ個人の選択と設備投資となる。

「住」の箱ものとしての家屋は、政府や私銀行の各種住宅ローンの増加で、近所もここ 5、6 年建設ラッシュとまではいかないが、これまで一階建ての家が二階を増築したり、あちらこちらにアパートメントの建設が眼につくようになっている。2000 年に入ると自由貿易協定 (FTA) の推進により外国の企業がインド国内で営業をはじめたせいもあるのだろうが、先に述べたテレビの普及とコマーシャルの効果もあってか、人々の消費の選択も確実に広まっている感がある。その例は住宅の外壁にも現れている。気になるのは、前には決してなかった黄緑、黄色、オレンジといった極彩色のどぎつい色の家が最近眼につくことだ。他の家よりも目立たせたいという心理からなのか、個人の選択と設備投資とはいえ、住宅周辺の環境調和を壊していることまでに思いが及ばないのが危惧される。



△我が家の隣は最近「アシッド グリーン」の外壁にした。陽光に反射して、目に痛い。